



ごあいさつ 社会福祉法人 美熊野福祉会 理事長 松村 元弘

皆様方には平素より「社会福祉法人美熊野福祉会」(杉の郷、杉の郷えほし寮、障害児者支援センター虹、障害児者相談センターゆず)に対しまして温かいご理解と多大なご協力を賜り心より厚くお礼申し上げます。

おかげさまで美熊野福祉会の最初の施設である「杉の郷」も、今年で創立20年を迎えることができました。

顧みますと、昭和59年4月に精神薄弱者更生施設を設置したいとの動きが起り、多くの皆様の熱意とご協力により、昭和62年11月に社会福祉法人が認可され、昭和63年8月施設完成、同年9月1日に和歌山県で初めての重複障害者受け入れ施設として「杉の郷」が、旧熊野川町に開設されました。

開設に至るまでの先人先達のご労苦並びにご協力頂いた多くの関係者の皆様、さらには施設の設置に深いご理解を頂いた歴代の旧熊野川町長、議会、そして町民の皆様方に対し改めて深い敬意と感謝を表する次第でございます。

施設につきましても年々充実を図り、開設5年後の平成5年には、2階建の多目的ホールと作業室4室を建設し、利用者の日々の活動の拠点として有効に活用いたしております。

平成10年には家族会・後援会のご協力を頂き、利用者の自活訓練棟を建設い

たしております。

さらに20年を迎える本年度は、利用者自立の為に3件目のケアホームを来年2月完成に向け準備を進めておるところであります。また、法人施設として平成8年9月には高田地区に中・高齢者のための知的障害者更生施設「杉の郷えほし寮」を、平成15年には蜂伏地区に障害児者支援センター「虹」を、さらに平成18年には虹に隣接して障害児者相談センター「ゆず」を開設し、障害のある方々の福祉の向上に向け邁進してまいりました。

開設当初は、杉の郷の利用者39名に対し、その支援を行う職員が23名でのスタートでありましたが、20年経過した今日では、法人全体で、利用者が110名、通所での利用者が約70名、さらにケアホーム利用者が11名であり、職員も130名となり、開設当初ではおおよそ考えられなかった成長を遂げてきております。

今後も地域に根ざした愛される施設として、また当美熊野福祉会の方針であります「4つの目標」、「5つの約束」を礎として、利用者の尊厳を大切に、快適で安全・安心の出来る生活が送れるよう、さらには障害のある方もない方も共に地域において生き生きと暮らすことのできる社会を目指し、ノーマライゼーションの理念のもと、障害者の自立と社会参加に向け役職員一同懸命に努力してまいりたいと、決意を新たにしておるところでありますので、変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



杉の郷創立20周年記念夏祭り

2008年8月9日(土)杉の郷設立20周年記念夏祭りを開催致しました。天候にも恵まれ準備も順調に進み、予定通りの開催となりました。ゲストも沢山来ていただき、盛り沢山の内容の夏祭りとなりました。



15:00より20周年記念式典が始まり、新宮市長を始め来賓の方々より祝辞を頂きました。



杉の郷利用者の歌では、20名で元気な唄を3曲(遙かな願い、翼を下さい、人間ていいな)を披露しました。

15:30より夏祭りが盛大に始まりました。シャルレモリモトファミリーズの皆さんによる、沖縄琉球エイサー太鼓や、舞踊、演舞をオープニングとして披露して頂きました。途中、音楽が切れてしまうハプニングに合いましたが、迫力のある演舞を披露して頂きました。



勝浦吹奏楽団の皆さんには、15周年記念に引き続いてのご出演となりました。お馴染みの楽曲を演奏して頂いたり、利用者さんもステージに上がって唄を歌ったりと楽しいステージで、会場も大変盛り上がりしました。



続いて太平まさひこさんのものまねステージでは、そっくりな歌声にびっくり！杉の郷利用者さんもステージと一緒にものまねを教えて頂きました。桂枝三郎さんの落語は上手な“オチ”に感心しました。枝三郎さんにも蕎麦の食べまねを教えて頂きました。



まだまだゲストは続き、演歌歌手の井上祐見さんのステージでは、昔懐かしの曲を披露して頂いたり、利用者さんと一緒に職員も振付を教えて頂いたりと盛り沢山の内容でした。



会場は盆踊りへと進み、沢山の人で踊りの輪を作ることができました。最後に福引抽選会では、多くの方からの善意による、豪華な景品が盛り沢山で会場もヒートアップしていました。(支援員 植田)



「ホームさんさろ」より

平成18年10月1日より共同生活介護事業として、「ほっとホーム」と「ホームさんさろ」の二つのケアホームが立ち上がりましたが、今年4月、新宮市高田地区の「ほっとホーム」が熊野川町能城山本へ引越し、従来の「ほっとホーム」男子3名と「ホームさんさろ」の男子4名が合流し、入居者7名のケアホームとなりました。従来の「ホームさんさろ」へは、新たに杉の郷から女子利用者4名が入居しました。二つのケアホームで現在8名の世話人と生活支援員2名でお世話をさせてもらっています。

男子が住む新しい「ほっとホーム」では、これまでの3名から7名となり、人数が多くなっ

3人越しました

た分、家庭的な雰囲気を損なわないよう、サービスが行き届かないということがないように心掛けました。本棟に5名、別棟に2名が入居しております。朝の忙しい時間帯に世話人を2名に増員し、設備面ではトイレを3ヶ所、風呂場を2ヶ所に設置しました。広いダイニングルームは7名がいっしょに食事しても十分ゆとりがあり、幹線道路から離れた静かなたたずまいの2階建て建築です。

女子が住む「ホームさんさろ」は、初めて杉の郷を出てケアホームに入った方々なので、広い個室、自由に見られるテレビなどに大喜びでした。調理実習、おやつ作りも好評です。

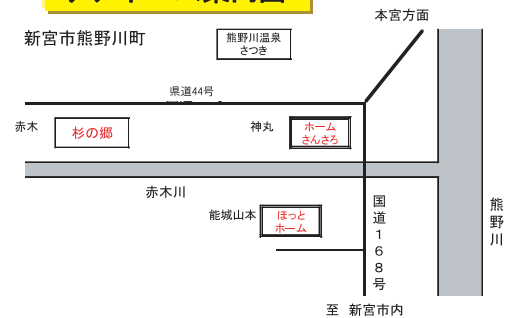
二つのケアホームの合同レクリエーションでは、太地町の梶取岬へ出かけたり、近くの赤木川で川遊びを楽しみ、ケアホーム同士の交流も深めております。引越し当初、それぞれのケアホームにおいて、利用者の人間関係のトラブルやお世話する世話人・職員の戸惑いもありましたが、約半年が過ぎ、次第に落ちつき、平穏な生活となってきております。

施設入所から地域社会へと福祉の流れは変わりつつありますが、私たちのケアホームも地域の方々に、ご理解・ご協力を頂きながら、ふつうに、明るく、楽しい暮らしが出来るよう、今後とも暖かく見守っていただけたら幸いです。

(支援員 菊谷)



ケアホーム案内図



この一年を振り返って

私が杉の郷で働きだして1年が過ぎました。以前は特別養護老人ホームで7年間務めていました。老人ホームのイメージと言えば身近に居る元気な老人を想像される方も多いかと思いますが、特別養護老人ホームの現状は違います。例えばターミナルケア（終末期）の方であったり、重度の認知症の方、転倒による骨折の危険性が高い方が約9割を占めていました。杉の郷では利用者の方も老人ホームに比べれば皆さん若く身体的障害を抱えている方が少ないように思います。ただ老人ホームになかった自閉症の方の障害特性や精神障害の方の接し方、毎日変化する状態や障害特性に対する支援方法。その支援方法に付いていくのに苦労しました。

働き当初は老人介護と全く違うと感じていましたが、利用者一人一人の状態を感じ取ったり考えたりするのは以前の仕事と変わりありません。「HOT（温か）な気持ちでCOOL（冷静）な判断で！」を念頭に置き毎日頑張っています。高齢者も杉の郷の利用者も施設での生活より住み慣れた我が家で暮らせる方が良いでしょうが、様々な事情により入所なさっていると思います。

全ての人が老いるという事。老いると自然に活動の範囲が狭くなる。そうなった時、人は幸せだった頃の思い出を傍に居る人と語り合い喜ぶのだと以前の職場で思いました。その思い出が多い方はもっと幸せではないでしょうか？

私には難しいことは出来ませんが、ただ毎日利用者の方々に笑って頂き、思い出の1ページに残れるような人に成れるようこれからも日々精進していきます。

(支援員 柿本)

財団法人日本船舶振興会 「福祉車両助成事業」完了のお知らせ

このたび財団法人日本船舶振興会より、平成19年度助成金の交付を受け、下記の事業を完了いたしました。

ここに事業完了のご報告を申し上げますと共に、日本財団をはじめ、ご協力を賜りました関係者の皆様に謹んで感謝の意を表します。

記

1. 事業名 送迎車(補助ステップ付き)の整備
1. 助成金額 1,360,000円
1. 完了年月日 平成20年3月31日



ごあいさつ

障害者支援施設 杉の郷
施設長 亀井 寿一郎

平素は「杉の郷」に対しまして、温かいご支援とご協力を頂き、厚く御礼申し上げます。

本年4月1日より、杉の郷でお世話になっておりますが、何分にも杉の郷のような施設での経験は皆無であり、全くの素人ではありますが、職員に助けていただきながら何とか勤めさせていただいておるというのが現状であります。前任の里際施設長のようには参りませんが、利用者が安心して生活できるよう頑張りたいと思っておりますので、何とぞよろしく願い申し上げます。

さて、杉の郷におきましては、本年度開設20周年を迎えることとなりました。

また本年4月より障害者自立支援法に基づく事業体系に移行し、これまでの知的障害者更生施設から障害者支援施設としてスタートいたしております。これを機に利用者の皆さんにこれまで以上に快適で安全な生活をしていただ

くために「利用者にとってより良い環境づくりとは」とのテーマで職員で意見を出しあった結果、貴重な意見が多く出されました。その中で出来ることは順次やっていこうということで進めております。具体的には、各居室・トイレ等の清掃を行い清潔な環境を作る・保持する。或いは「自分が住みたくないと感じるような施設環境にはしない」ということで早速専門の業者をお願いして居室・廊下・食堂等々のクリーニングを実施いたしました。

また、利用者の支援についても、利用者の目線で考え、利用者がして欲しいと思っていることを誠意をもって対応し、楽しく過ごせる環境の整備に努めているところであります。杉の郷の入所者の多くは、若い人が多く、非常にエネルギーがあります。一時も目を離すことの出来ない方もおり、職員も日夜その対応に励んでおるところであります。

至らない点多々あるかと思いますが、改善すべき点は改めてまいりたいと思っておりますので、お気づきのことがありましたらご遠慮なく申し出てくださいと思っております。地域の皆様方並びに関係する方々の絶大なるご理解・ご協力を頂きますようお願い申し上げます。